氏　名:　大仲　智也
専攻・学年:　工学部物理工学科（機械システム学コース）・3 年生
派遣国:　アメリカ
派遣先（研究機関名）:　University of California, Davis
受入研究者（職・氏名）:　Professor Janis Williamson
派遣期間:　2011 年 8 月 13 日　～　2011 年 9 月 5 日 （24 日間）
派遣先での研究テーマ:　京都大学共同企画　実習型　夏季短期留学プログラム　UC Davis （カリフォルニア大学デービス校） EXTENSION
(UC Davis EXENSION, Kyoto University English for Science and Technology Interdisciplinary Research Program）

【研究実施概要】

プレゼンテーションを効果的に行う方法について授業を受け、その最終日にあるプレゼンのために練習と話し合いを繰り返し行った上で、お互いに披露し合い、プレゼンについて他のグループと話し合った。また、英語の発音やリスニングについての注意点を学ぶことで、さらなる正確な英語伝達を図った。それを用いて、お勧めのお店や自分の専門分野の有名人の紹介のプレゼンを通して、自分の英語力を磨いた。そして、ホットトピック、特に、農学、企業の宇宙事業、バイクレーンに関して学び、それぞれの専門的な単語を習得し、それを専門とする方からの講義を受けることでさらなる理解を得た。さらに、「Entrepreneurship and New Venture Development（起業とベンチャー企業の発展）」に関してのプレゼンを 3 週間かけ、実際のベンチャー企業や大学院などを訪問・視察することによって学び準備し、最終日に自分たちで構成を考えてプレゼンを行った。

また、コアとなる農学、環境、都市計画に関連した学際多様な話題、具体的には 1.福祉・市政、2.地域・交通、3.設備・再生エネルギーについての講義を事前準備をし、受講した後に、内容の要約を英語で行うことで、要約する力、英語の文法力を鍛えた。

さらに、このプログラムの一環として、アメリカの家庭への 3 週間のホームステイもあり、ホストファミリーと一緒に過ごすことで、日常生活で使うような非公式的な英語やアメリカ人の習慣、食べ物、性格についても学んだ。

【研究成果概要】

今回の業務上の成果として、私自身が感じていることは英語を実際に使ってコミュニケーションを行うことで英語に対する自信がついたこと、英語運用能力が向上したことである。ただ私自身が予想していた程の英語力の向上はなかった。また、何度も授業内でプレゼンテーションを行ったため、プレゼンテーション能力が向上し、人前で話すということに対する抵抗、緊張感が減少した。そして、10 人程度の少人数の授業内でたくさん挙手し発言を行う機会をいただいたことで、失敗に対する日本人特有の嫌悪感、羞恥心が低下した。そのような点から、自分の強さや弱さを再確認する機会となった。最後に、カリフォルニア大学デービス校のあるデービス市やカリフォルニア特有のバイクレーンやファーマーズマーケットなど、または、ホストファミリーとの生活によって、日本との違いやこれから日本に求められていることを肌で感じることができたことが挙げられる。

私自身のこのプログラムに対する期待、目標は大学院留学の疑似体験を予想していたため、この点に関しては大変失望した。確かに日本の大学講義のスタイルと違うディスカッション・プレゼン形式ではあったが、できればもっとアメリカでしかできないような実験が見たかった。

【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上，海外におけるネットワークづくり】

特に今回のインターンでの一番大きい影響として、積極的に授業に参加し、発言や質問を自分がすることで、周りの人間の刺激となり、同じグループの者もより良い授業を受けることができたことが挙げられる。実際に、講師を担当してくださった方や仲間たちからその点に関して大変良い評価をいただいたので、他の人にはない自分にしかないコミュニ

ケーションの方法に気づくことができた。ただ、講師とのコミュニケーションを取る時にあまりにも冗談を言い過ぎたため、講師の方から「a little silly」と言われてしまい、自分の良くない点にも気づかされた。また、仲間内ではなく、他の大学の学生たちの前で冗談を交えながら英語のスピーチを行い、笑わせることができたことで自分の英語能力の可能性を高く感じることができた。

また、私自身が苦手としていたスピーキングやリスニングの能力は一時的に伸びを感じた。ホストファミリーと最初は全く英語が聞き取れなかったため、話すこともできなかったが、3 週間と過ごすうちにドンドン理解できるようになっている自分に気が付き、ホストファミリーにも褒められた。しかし、それは一時的なものでこれからもこのような英語の学習を続けていく必要があると感じた。

ただし、今回でもっとも痛感したのが企業訪問の際に会社の方が話している英語が早すぎてしっかりと理解することができなかったことであった。

【派遣の感想】

今まで都市システムや食料環境などに興味も全くなく、面白みがわからなかったが、今回バイクレーンやオーガニックフードについて学ぶことでそれらの学問の大切さを実感することができました。そして、ホストファミリーと様々なところに行ったことで、大変カリフォルニアという州の一部を肌で感じて、楽しむことができました。

今回の留学中に常に「今しかできない、または今、することで今後の自分により良い影響を与える行動をすること」を常に意識しました。特に、いつも大学で一緒にいるメンバーよりも向上心があるメンバーに囲まれていたため、大変刺激になりました。また、日本の大学では少人数で授業を受けることもなく、討論しながら考えていくこともない上、プレゼンテーションを行う機会など工学部 3 年生には全くないため、今回のインターンシップは自分にとっては大きなチャンスだと感じることができました。また、他大学からもたくさんの学生が 4 週間から 1 年間の留学を行って遊んでいる人と会うことで、自分たちの 3 週間という短いプログラムに対して一時恨んでいました。しかし、自分たちがなぜこのアメリカにわざわざ来てまで勉強しようかと思ったのかを再確認することで、今では 3 週間という短い期間で内容の濃い講義を受けられたこのプログラムに対して大変感謝をしています。